

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	049 -	事業名	文化・文化財事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課
------	-------	-----	----------	------	-------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 文化をみがき、人が輝くまち	会計区分	一般会計
	まちづくり行程表・フラッグ	—	予算区分(款 - 項 - 目)	
	第6次総合計画・基本目標	✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪	9-4-6 文化財費	
	法定受託事務の有無	—		
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手市文化財保護条例		
事業開始の背景、経緯等		文化財を保存し、且つ、その活用を図るため。		

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市民共有の貴重な財産である文化財を保存、継承するとともに、地域の活性化に向けて積極的に活用する。		
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内に存在する文化財全般。		
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。		
	事業を構成する事務事業(B票)	① 文化財事務事業	改善・見直し	④
		②		⑤
		③		⑥

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)		千円	予算	21,621	23,802	23,929	38,889
決算				19,938	22,368	21,396	25,849	
人件費(B)		千円	決算	3,895	5,041	6,074	4,401	
総コスト(A)+(B)		千円	決算	23,833	27,409	27,470	30,250	

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A	史跡案内回数	回	目標	25	25	25	25
実績				16	26	24	18	
B	史跡確認点検回数	回	目標				12	12
			実績				12	
C			目標					
			実績					

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 郷土史研究会の史跡案内の回数25回を目指す。郷土史研究会の活動実績により、実現可能な数値とした。

B 文化財、史跡地への確認点検回数12回を目指す。定例的に文化財を巡視することを目的とし、月1回の頻度で実施する。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) H30年度、文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が望まれるようになった。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・史跡案内については、前年より減少し18回の実績であった。目標には至らなかった。 ・史跡確認回数は、目標の12回実施した。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・史跡案内回数については、横ばいで、これまで目標に至っていない。 ・H30年度から成果指標としている史跡確認回数は、目標の12回実施している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 文化財の保存、継承及び活用の重要性を市民に情報発信していく必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 継続的に文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・古戦場公園の植栽管理について、回数・程度の見直しに努め、経費節減に努めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	文化・文化財事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	—
事務事業名	①	文化財事務事業	予算区分	9-4-6 文化財費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 文化財の保存、継承及び活用するための事務事業を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	21,621	23,802	23,929	38,889	35,982
		決算	19,938	22,368	21,396	25,849	
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) 古戦場公園史跡維持管理工事 18,708 千円 (2) 学芸員嘱託員報酬 2,210 千円 (3) 警固祭り補助金 2,000 千円							

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
文化財保護審議会の回数	回	見込	2	2	2	2	2
		実績	2	2	2	2	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要（30年度(2018)）> 文化財の保護及び活用に関し、古戦場公園史跡維持管理工事や警固祭り補助金の交付などを実施し、文化財の保護を図った。また、学芸員嘱託員を雇用し、文化財の保存活用のための体制を整えた。上記について、文化財保護審議会へ報告した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

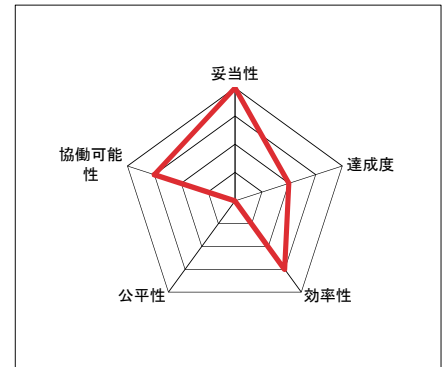
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) H30年度、文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が求められる。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
38,889 千円 35,982 千円 Δ 2,907 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
文化財の歴史的価値、観光資源としての価値を高め、文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
郷土史研究会と連携し、文化財の歴史的価値等、市民や本市に訪れる人にPRした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	2
効率性	3
公平性	—
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	108	104	106	110
実績	108	104	106	
(2) 協働の状況 (30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
郷土史研究会と協働し、文化財の歴史的価値等を市民や本市に訪れる人にPRした。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
長久手市文化財保護審議会では、当該年度の文化財保護事業の計画や実績報告、次年度の計画等について説明し、審議会から意見聴取した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市民組織と協働して、史跡を保存活用していくことができるように、市民組織の育成を図る。

7. 今後の方向性

改善・見直し